

教えてください、あなたのことを。③〇

鎌倉を美しくする会・鎌倉のごみ減量をすすめる会代表
神奈川県鎌倉市 高田晶子 さん

つなげるつながる会員さん

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 熊本市出身の 80 歳（国会議事堂と同じ歳）です。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは…？

A 昭和 38（1963）年に東京都民になってから。熊本市では自家処理が当たり前、生ごみは庭に埋め、缶、ビンなどの資源物は廃品回収業者に売却することで生活が成り立っていたのに、新婚生活がスタートした東京の 5 階住まいのマンションでは、各階にごみ投入口があり放り込むだけ。1 階保管所に溜まったごみの山を清掃作業員が掻き出し埋め立て地へ。折も折、江東区の埋め立て地周辺では蠅が大量発生し大問題になっており、近隣住民の悲痛な叫びに心が痛みました。



1971 年に鎌倉に引越しましたが、またマンション住まい。しかし鎌倉市は全国に先駆けて可燃、不燃、粗大のごみ分別がスタートしており、ごみを分けて出すことに新鮮な驚きを感じたものです。

住まいは造成地の一角にぼつんと立ったコンクリートの箱といった殺風景な場所。敷地がゆったりしていたので、生ごみは敷地内に穴を掘って埋め、夫がアジサイ、夾竹桃等挿し木しベランダで育て、緑を増やしました。鎌倉ではさまざまな市民活動に関わり、環境問題はライフワークとなり今日に至っています。

Q 「ごみ・環境ビジョン 21」に入会して下さったきっかけは？

A 2011 年発足した「鎌倉のごみ減量をすすめる会」の会員から、ごみ・環境ビジョン 21 が先進的な活動をしておられると教えて頂き、何度かごみ大学や生ごみリサイクル交流会などにも参加し、入会しました。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 年間 2 千万余の観光客で賑わう鎌倉。観光ごみも無視できず、散乱ごみのない美しいまちを維持する活動に長年取り組み、今年も 8 月 7 日「かまくら認知症ネットワーク」と一緒に、観光客の往来が激しい鎌倉駅地下道のタイル壁を水拭きしました。参加者は認知症の方、介護者、市民、学生など。この「かまくら磨き」は認知症の方の社会貢献の場として定着しています。



また「鎌倉ごみの減量をすすめる会」で、2012 年から申込みがあった自治・町内会、サークル等に出向き、ごみ減量や実演を兼ねた生ごみ処理の講話をする「ごみ減量キャラバン」を実施。実施件数は 2015 年度までに 45 団体（1,232 名）になりました。